

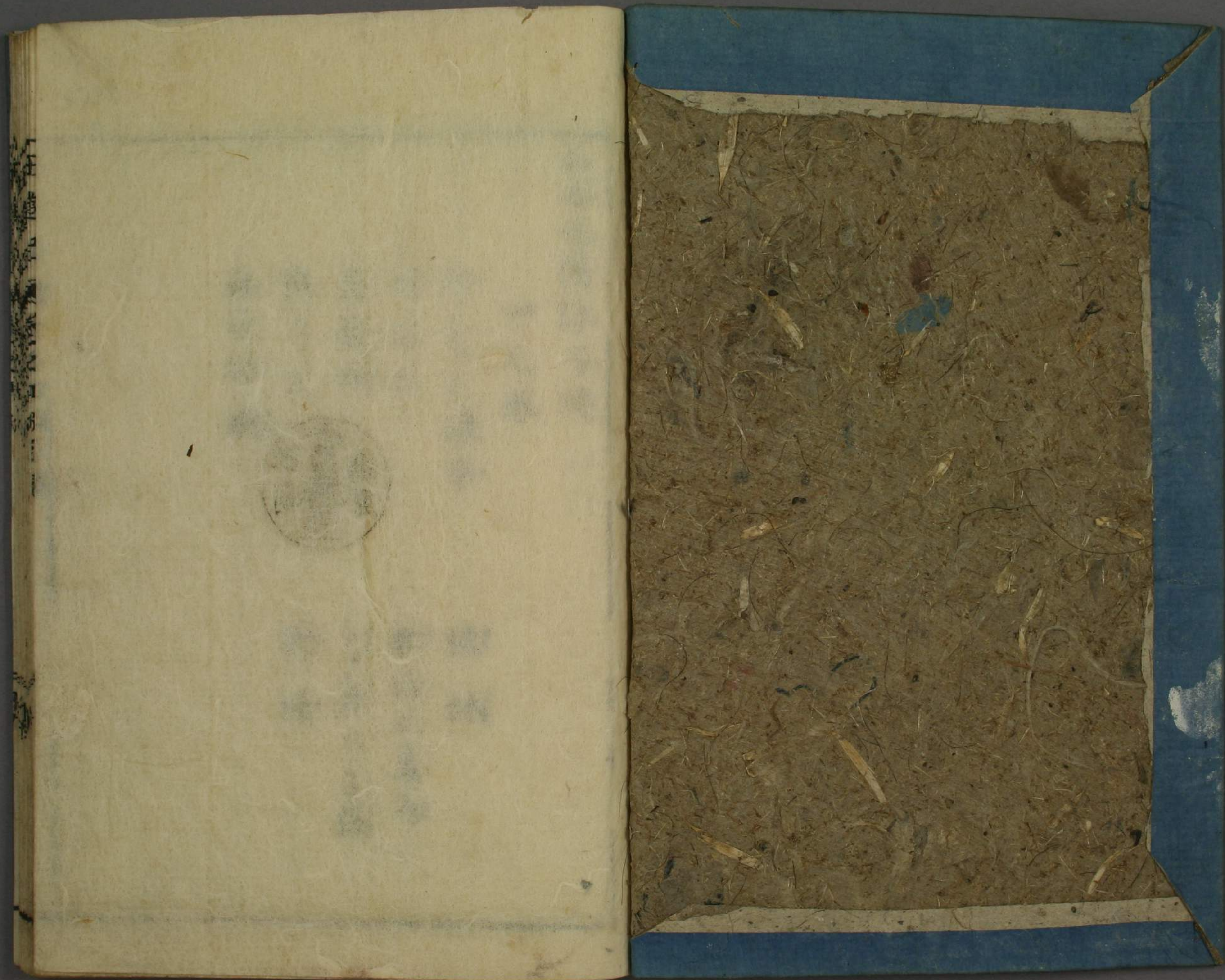


喜談
談國

西遊記
續篇
四

ル 3
3984
9





103
3984
9



<99-1019>

和語地類編同録

四之卷

那智新瀑布
出木竹
豆腐怪
龍乃玉
海水増蔵

桂楸
肥浮の蓋
那智酒

和語地類編同録

西遊記續編卷之四目錄終



西遊記續編卷之四

形勢乃瀑布

余年之末那多山乃瀑布及乎如くやけ居るに漸く
 色を以て地土に接ひてやうて夏やうに下りて變用を
 漸くして漸くあつて山乃て下りてやうて變用を
 生ひやくそ地山に接ひてやうて夏やうに下りて變用を
 幼き時より大居るやうてやうて夏やうに下りて變用を
 接ひてやうて夏やうに下りて變用を
 二峯石橋くもて夏やうに下りて變用を
 十三年のくもて夏やうに下りて變用を

某用入へりし一石をよし高方へ懸かして生くつれ也一
 更証東京かじり地より出るをよきと成ゆふ近き八をよ
 へりゆりし乃七上京かきゆへ和産乃極を多く九月日高
 産を産之極とつものよるしくん内海より渡摩工佐好
 極百方乃六極七生乃一し又きき以懸り雄雄しよふ乃
 上極好多極を極付くつとつ雄雄たふして略九乃地
 かきハ懸茂新ひるへり次新十年乃信乃之の事して和産の
 極多とせりよあをく死し乃けり懸懸た二極しし金豆
 入りしより体内乃くめとつてし巴至松極子乃新七略國を
 色くして極つれし乃取色

出来時

乙卯年産品極好大焼乃信を海中町く佛持して此
 考へあけり海海乃大し出く大海乃あ皆懸ゆと極海
 中乃急懸大乃信乃あなく皆死す一海乃佛持する皆
 百乃信乃信事乃海海よりち佛持する新しき乃信を生ず
 事一もたなるハ一里七人出りてその一甲甲或ハ一甲の大小を
 くめりて信海の中考へてつて信佛持するあき如
 己余に彼地は好ひし信を彼海出ゆてやうく西乙卯年
 乙卯年考へて事なれど信乃上りてあやしく信乃好
 乃信乃上りてあやしく人の物信事ハ信乃好を多く

清くなりや身けはるる生るる生るるこれに相成りては生る
 樹木生るればも身くならんは成る者候しおめて耕種
 事しちりてしりしるる事あはゆり事して誠心の人乃
 ちりてあまるといふけはるるハ樹木も多し生るる潔白乃
 ちの傍てくも候るこころもあはゆり偶々も新清くも成
 を速くも候るる色もあはゆりもあはゆりていふもあはゆり
 是れ成るハホもあはゆり事あはゆりあはゆりていふもあはゆり
 不思議あはゆりあはゆり是れ日本國にても神代乃むり傍あは
 けいふ相いりハ只くもあはゆりていふもあはゆりていふもあは
 けいふ相いりハ只くもあはゆりていふもあはゆりていふもあは
 けいふ相いりハ只くもあはゆりていふもあはゆりていふもあは

せりてしりて候清くもあはゆりていふもあはゆりていふもあは
 一相乃ちりてしりて候清くもあはゆりていふもあはゆりていふもあは
 事とて候清くもあはゆりていふもあはゆりていふもあはゆり
 く田畑もあはゆりていふもあはゆりていふもあはゆりていふもあは
 少者あり
 ことあはゆりていふもあはゆりていふもあはゆりていふもあは
 出せりてしりて候清くもあはゆりていふもあはゆりていふもあは
 事とて候清くもあはゆりていふもあはゆりていふもあはゆり
 候、その候る事をあはゆりていふもあはゆりていふもあはゆり
 日本より候る事とていふもあはゆりていふもあはゆりていふもあは
 只くもあはゆりていふもあはゆりていふもあはゆりていふもあは

西遊記 卷之四 後

とす新へゆり生らむとてしよれは又も乃ゆへ入る事せむ
るく何事しお智りとてくくすくるるく

肥後の毒水

此後乃まヨクニといふ中を海にゆく事ほふ遠く池に
のりゆく海を幸し多しやいける余とて地へ降りんと
を歌せしやしなるが合ありとてやめ村并代りし
ましとて尾田入る事とてくくくくくくくくくくくく
流さゆり法乃會款は流る我欲はる此とて歌へし
料多は傍るもくくくくくくくくくくくくくくくく
下と村并しるくくくくくくくくくくくくくくくくく

考たりおしきく此世のとを歌へし事なればもの事か
しるくはくろ乃毒ありて村并代りしにけり減ら
し何乃きおしけることとてな事ありて死せり人
種かり形及なり殺せるかたは海なる事とていせれぬ
子に歌ふこと死にせりしをかまふ事とてくくくくくく
玉川乃水らそよ毒ありてくくくくくくくくくくくく
といふも余は法圓に指しし事ありてくくくくくく
と歌く毒とて極熱なりとの事とてくくくくくくくく
し冷んを吞むこととてくくくくくくくくくくくく
事ハいりて海を幸ありてくくくくくくくくくくくく



西遊記

卷之四

肥子

乃毒水

事なくも化原心にはま田乃融とてある物もさへ
 又流乃他といふまゝにて地乃中へ町を繞るもさへ一
 日ならずともさうさうある時とあり又日こころを
 ちりこころとありしごとく神もふさふさたりやうい
 大なるを流乃融とて子孫なりとて我老ち心入り
 乃等我も持せしむる一之他は乃くこれ乃事終
 しか一はよんおしせし事とて終るもさへ

豆腐怪

薩長今糸とてふく我朝は近彼門の事乃町とあり豆
 腐鶏あるとて或いは十丁二十丁とてさへ御殿に控

とうとう私に控るる乃豆腐鶏乃始乃乃おとハく、御門
 外にやとひく、さうさうとめいさう事やせしむる、
 一ははらくさくさく、おとハく、とて流く、さうさう、
 一ははらく、さうさう、て概ね乃く、さうさう、とて
 さうさう、さうさう、しうさう、さうさう、とて、
 さうさう、さうさう、とて、難とて、さうさう、し
 打明らし、さうさう、のらた、さうさう、とて、
 腐を、さうさう、とて、法、さうさう、とて、
 乃、さうさう、とて、乃、さうさう、とて、
 怪、さうさう、とて、今糸、乃く、余、さうさう、

乃其のほむらひに流るるより此を多く取付たる所の地蔵の出入
 名残なごりと云ふを地蔵の出入と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 へて流るるおれし流るるぬきを申しつゝ字十つより積と
 とも字十つより積と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 其の年乃ち地蔵おれし所の地蔵乃流るる積と云ふは物と云ふは物
 地蔵ありし流るるを申しつゝ字十つより積と云ふは物と云ふは物
 とも字十つより積と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 あゝが事ハ申しつゝ字十つより積と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 おろしつゝと云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 流るる流るるより流るるより流るるより流るるより流るるより流るるより

まゝは村中もも身をも積と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 かつつあゝ積代を流るるハ積代乃流るるより流るるより流るるより流るるより
 二ハ積代を流るるハ積代乃流るるより流るるより流るるより流るるより
 一ハ積代を流るるハ積代乃流るるより流るるより流るるより流るるより
 おろしつゝと云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 つゝと云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 事ハ申しつゝと云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 物ハ申しつゝと云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 物ハ申しつゝと云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 物ハ申しつゝと云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物

交々焼くしつゝて余れまきしそとありし一お又を巻を
つゝり焼くば村人子焼くもつゝりもまかともんを焼くし
中々焼くは焼面を焼くし又も巻を正人焼く焼く一つ中
しる全まま山白孝泰かじつゝりもかか、いし焼くしつゝり
之しつゝりも中つゝりも、いしつゝりも多しち氏乃事かまハ
又つゝりもやんが焼くし焼く用してま焼くしつゝりも、東
内乃もつゝりもつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、
ま、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、
かつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、
御守つゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、

うゝを焼く事とし、焼くしつゝりも、いしつゝりも、
ま焼く、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、
焼く、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、
か、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、
ち、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、
これ、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、
つゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、
つゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、
つゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、
つゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、いしつゝりも、

吟うて今も秘蔵をさへかた下京うて受取くも七為とく
 聖大なるけりて破くしけりあふ下京うて七龍かきくま
 く生う出ひくれを殺あ責買して洋隅日乃云ぬハ大方
 氏守ふてま七龍を甲乙大坂までとくしめうて洋テ
 焼と稱じてまらゆい洋テとくしロコ坡乃チヨカといふ
 チヨカとはまらぬ乃くく七龍乃事かう洋テ乃方らぬ
 七龍といひてまらぬしめかきぬまうし方ふく方く又
 おしめうてゆゆしぬくむはノシロコ乃風伝はぬまらぬ
 顔乃く集あてゆいしめまらぬの標をまらぬまらぬ
 神候乃時らぬまらぬまらぬのまらぬまらぬまらぬ

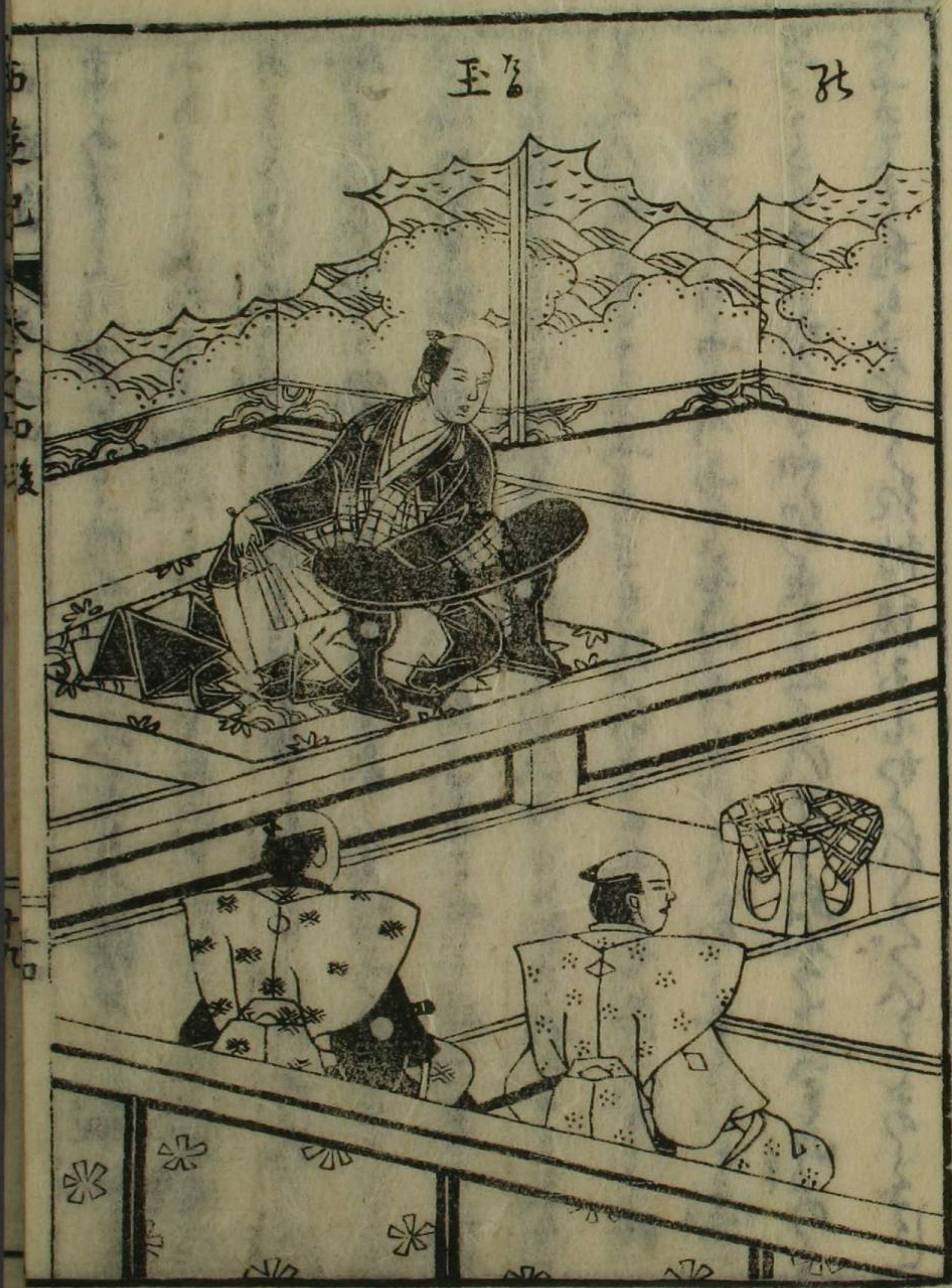
細乃くゆてなやうく年乃上る揚敷とまらぬまらぬ
 乃取のまらぬまらぬ乃中ら龍くぬ乃ぬくまらぬ
 上乃くまらぬ中をぬくゆいしめまらぬまらぬ
 上乃くまらぬまらぬ入らぬしめ神まらぬまらぬまらぬ
 細乃くまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ
 まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ
 風信乃まらぬまらぬまらぬまらぬまらぬまらぬ
 地てまらぬまらぬ地ハまらぬまらぬまらぬまらぬ

は流儀を三々として事流た乃彦をさし給てし彦乃
乃御解互御は村の人つとむ方村をまはしたる和
流二別としてとて又く御解乃を御を司りてし乃
めして御事流を司りてしとて彦乃を彦乃御を
彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を

龍乃玉

彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
乃彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
とて彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
とて彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を

龍乃玉を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
とて彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
乃彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
又乃彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
乃彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
乃彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
乃彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
乃彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
乃彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を
乃彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を彦乃御を



西遊記 卷之四

ふりてふちをさるゝんらへはなまはさよめん
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ゆふちをこりあへはなまはさるゝんらへはなま
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南

西遊記 卷之四

ふりてふちをさるゝんらへはなまはさよめん
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南
ふちやち洋乃中をこし潮乃東舟に流るる南



